



1 平成元年の再発見時、虎尾桜の幹には、シダやコケが着生。幹と根の北側半分が高さ2mまで腐食し、幹内部は内径80cmが空洞化していた。生存部と枯死部に亀裂が入り分離した状態で見つかるほど傷ついた状態で発見された。

2 高さ20mの高所で、杉とこすれて付いた傷や伐採部分を保護する作業風景。腕利きの樹木医として知られ、平成11年から虎尾桜の再生を支えた宇佐美 囀一さん(写真中央)。治療の甲斐あって、平成16年から毎年花を付けるように。

3 現在の虎尾桜の幹の付け根部分。幹内部の約7割は枯死しており、残り3割の健全部と、写真中央の上から下に向かって生えている「不定根」で、栄養や水分を桜全体に行き渡らせている。

毎年その姿を一目見ようと、桜前線と共に町内外から多くの見物客が来訪。今では絶大な人気を誇る虎尾桜ですが、第二次世界大戦後の大造林政策による環境変化で、33年前までは人々に忘れ去られ、枯死寸前だったことを「存知でしょうか。

枯死寸前から奇跡の再生 仰ぎ見る人の心に平穏を

上野越登山口から入り、せせらぎを聞きながら案内板を頼りにひたすら登って約30分。うっそうと茂る深緑の杉林を縫うように進むと、その隙間から紅一点の鮮やかなピンク色が目に飛び込んできます。その先で私たちを待っているのが、高さ23m、幹周り3・83mを誇る県内最大のエドヒガン・虎尾桜。齢は六百を超えており、町内に群生するエドヒガンの母樹として考えられています。平成12年に町の天然記念物として指定された虎尾桜。千を超える杉林に囲まれながら、凛とした強さと、訪れるすべての人を包み込む優しさを兼ね備えています。

県内最大にして町内最古 町内エドヒガンの母・虎尾桜

安心・安全に登ってほしいから!

虎尾桜へと続く橋リニューアル



虎尾桜へと渡る吊り橋が、経年劣化によって一部抜け落ちたり、腐食したりと、非常に危険な状態になっていました。そこで、桜の開花シーズンを前に吊り橋をリニューアル。皆さまが安心・安全に登山を楽しめるよう一新しました。

備えあれば憂いなし!

方が一のために提出しよう 登山計画書



低山でも天候の変更などで、思いがけず遭難や事故に遭う場合があります。県内の山に登る時は「もしも」の時のお守りとして捜索・救助活動時に役立つ「登山計画書」を事前に提出しましょう。福岡県警察公式HP内の専用フォームから簡単に申請できます。

福岡県警察本部地域課
092-641-4141



「あと2、3年発見が遅ければ倒れていた」と言われる絶体絶命の窮地を救ったのは、地元の有志で結成された「虎尾桜を心配する世話人会」。樹木医を呼び、幹や枝を支え、日光が注ぐように周辺の杉を伐採。根元の土壌改良を施すなどの精神的な保護活動が結実し、発見当初には隔年に1度しか咲かなかった花が、毎年満開の桜を咲かせるまでに奇跡の回復を遂げたのでした。



→今年3月6日に行われた毎年恒例の「虎尾桜を心配する世話人会」活動。総勢9人で、虎尾桜周辺の下刈りと土壌改良のための肥料撒きを実施。

るよう、毎年満開の桜を咲き誇る福智山の霊木・虎尾桜。ため息が出るほど美しい…その姿を仰ぎ見る全ての人の心にこれからも、エドヒガンの花言葉である「心の平穏」を与えていくことでしょう。

「かつては人々に忘れ去られ、生を終えようとしていた虎尾桜。人の手と心で奇跡の回復を遂げ、今では誰もが見惚れる名桜に――」

母なる巨櫻

町内に分布するエドヒガンの母樹と考えられる県内最大にして町内最古のエドヒガン・虎尾桜。樹齢六百年を越えてもなお美しく咲き誇る姿を毎年多くの見物客が仰ぎ見る人気の桜ですが、第二次世界大戦以降、社会の趨勢に取り残されたように忘れ去られ、静かに枯れようとしていました。

